

キャリアパス拡大フォーラム
「博士がつくる21世紀社会
—科学技術人材配置革命の夜明け—」
2007年12月16日

キャリアパス拡大
—社会情勢と新しい地平—

伊藤真之

神戸大学人間発達環境学研究科

神戸大学サイエンスショップ

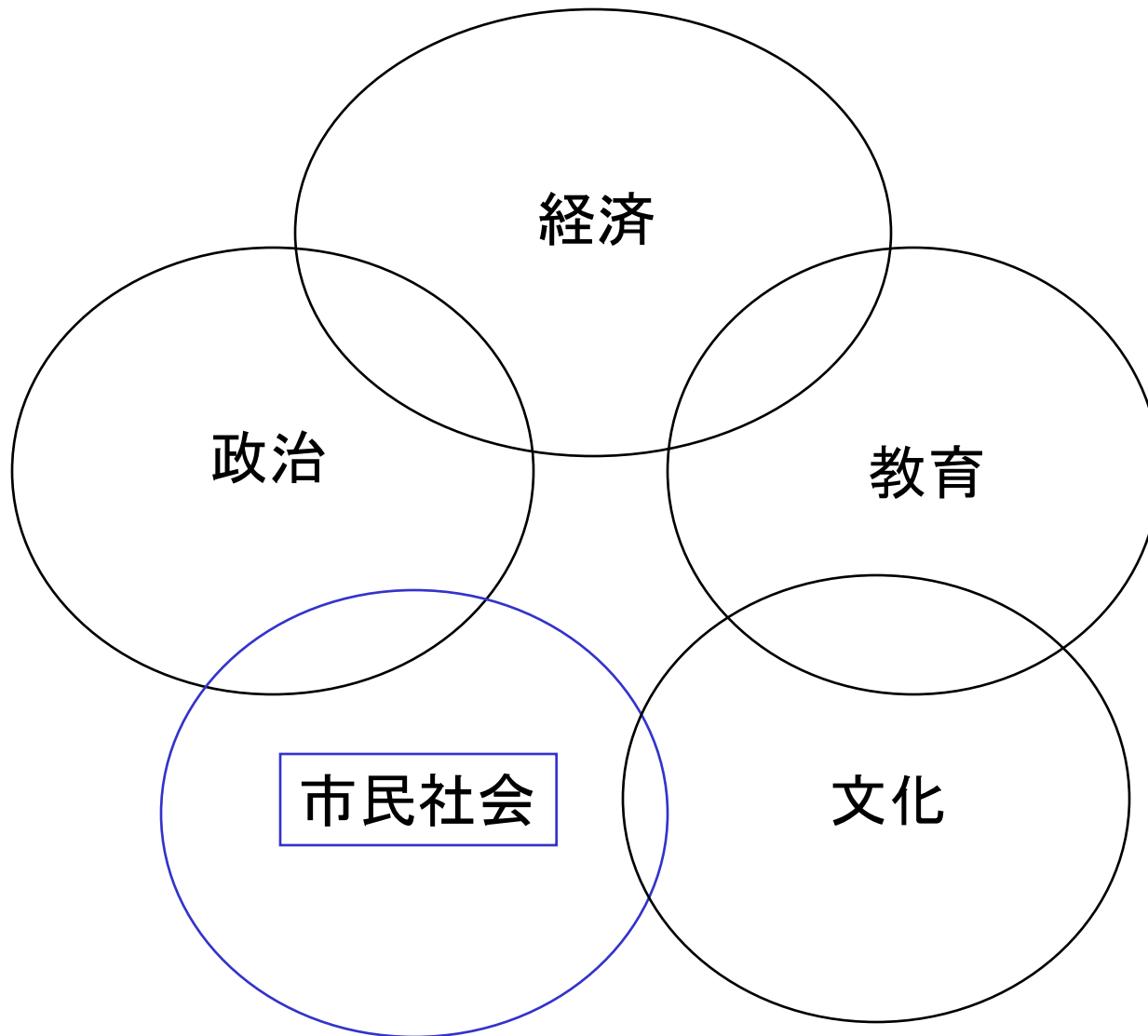
フォーラムの趣旨より

「今回のイベントは、ポストドクター・大学院生と企業の間単なるマッチング活動や一方通行の議論にとどまるものではなく、

*新しい21世紀社会を作るために
高度の学識と研究能力を活用したいと考える*

ポストドクター・大学院生と、企業を始めとする社会の種々のセクターの人々との自由な意見交換を通じて、相互の理解を深め、今までになかった形態の人材活用の道が新たに切り拓かれるきっかけにすることを目的にしています。...

“博士”のキャリアパス拡大の新しい領域としての 市民社会



「新しい21世紀社会」 現在の社会情勢

- 知識社会 (knowledge society)
- グローバル化
- 代議制民主主義の課題
 - ⇒ 協議 (討議) 民主主義の可能性
(Deliberative Democracy)

新しい市民社会の構築

- 代議制民主主義
（官僚による政策決定
—「構造化されたパタナリズム」(米本)）
- 参加型民主主義
「討議デモクラシー」(篠原一)
しくみづくり(制度化)の試み
 コンセンサス会議 (Consensus Conference)
 討議制意見調査 (Deliberative Poll)

参考：篠原 一「市民の政治学—討議デモクラシー
とは何か」

ハーバーマス「公共性の構造転換」

岩波書店「科学」 2007年8月号

特集〈未来への構想〉

「科学・文化・幸福」

佐藤文隆—村上陽一郎 対談

「アンビシャスで勉強好きな人間は、何がしか世のため人のためにと考えているものだと思います。かつては、知的エネルギーが、「〇〇のために」とじかに結びついていたと思う。...（中略）

それが、科学の営みが非常に大きくなるとと同時にグローバル化してきて、感じにくくなってきた。

そして、「国家のため」とか「世界のため」というのではなく、クライアントとのギブ・アンド・テイクで、「〇〇の開発のために」というものがむき出しになってきているのが、今の現状でしょう。」（佐藤文隆）

「個人的意見にすぎませんが、
何のために働くのかといったときに、私は、
産業のために働くのでもない、国家行政のために
働くのでもない、でも、まさに、
自分のまわりにいる、自分とともに生きている誰か、
同じ生活を営んでいる誰か、
そしてその人たちの子どものため、
というようなかたちの「ために」というあり方が、
もしかしたら一つ、将来の可能性として
あるのかもしれないと思っています。」

（佐藤文隆）

「地域の人々が生きているそのなかに、科学のすばらしさが、独特のかたちで浸透していくような可能性があるような気がする....」

「アマチュアとプロが分かれているのは確かですが、一つの共同体のなかでサポートされたり、逆に共同体をサポートするような働きをする人たちが、科学者のあいだから出てくれば.....

同じ生を生きているコミュニティの仲間たちのためにできる科学的営みが、科学の美しさを土台にしつつ共感を生み出していく。

仲間のために働く人たちが、一つのモデルをつくる可能性を、私は見出したいと思ってもいます。」

(村上陽一郎)

「市民の科学に対する大学の支援 に関する実践的研究」 (略称「市民の科学」)プロジェクト

科学・技術が高度に発達した現代社会において

- (1)環境問題等の社会的課題解決手段として
- (2) 知的探求活動として

市民の科学・技術にかかわる問題の調査・研究能力を
高めてゆくこと(エンパワーメント)が大きな意味を持つ。

本プロジェクトでは、欧米の事例(「サイエンスカフェ」
「サイエンスショップ」など)を参考にしつつ

日本の社会に適した「市民の科学」に対する大学の
支援のあり方を、地域社会(神戸)をフィールドとして
実践的に探り、新しいモデルを構築することをめざす

Science Cafe

(カフェ・シアンティフイーク)

町のカフェなどで、科学者(専門家)と市民が、コーヒーや酒を飲みながら、科学・技術などの話題について、自由に語り合う科学技術コミュニケーションの新しい形

1998年イギリスのリースで始まり、各国に広がっている (パリの哲学カフェに着想)



Science Shop

(Community-based research)

地域社会や市民の科学技術的課題に対して大学やNPOなどが相談にのり、調査・研究を行ったり助言したりして、専門知を活かして解明や解決を支援する

1970年代オランダの学生運動の中から生まれ各国に広がっており、大学院生などが調査・研究に大きな役割を果たす形も多い

「神戸大学サイエンスツショップ」の設立(2007)

神戸大学人間発達環境学研究科

専任スタッフ2名(非常勤), 教員~20名の関与

目的と機能 “神戸型”サイエンスショップ

(1) 市民社会の科学に関わる課題への

取り組み支援

(2) 「文化としての科学」の発展支援

(3) 大学・大学院教育

「創発的科学者養成システム」

- 課題発見・探求・解決能力
- コミュニケーション能力
- プロジェクトマネジメント能力

神戸大学サイエンスショップ

これまでの取り組み(1/2)

- ・ サイエンスカフェ事業の展開, 発展
- ・ 市民と研究者が協力して気候変動に関するIPCCレポートを精読する勉強会の実施
「IPCCレポートを根ほり葉ほり読む会」
- ・ 六甲山をフィールドとして活動する市民活動の連絡協議会（「六甲の森のなかまたち」）への参加と連携模索の為の意見交換
- ・ 地域の親子が参加するビオトープづくり
- ・ 神戸市の学校ビオトープの状況調査とネットワーク作りに関する相談と協力

神戸大学サイエンスショップ

これまでの取り組み(2/2)

- ・ 地域の高等学校との連携による月観測プロジェクトの立ち上げと実施
- ・ 地域の市民による環境問題調査に関するコンサルティングと協力（低周波振動， 大気， 水質）
- ・ 野生動物問題（南あわじ市鹿被害対策）
に関する相談と協力の協議
- ・ 地域の小学校保護者の要望を受けた
理科実験教室の開催
（このほか， 高等教育プログラムの一環としての
さまざまな取り組み）



神戸大学サイエンスショップ

課題と展望

- ・ これまでのところ， 広義の科学教育に関わる取り組みのウエイトが高くなっているが
市民による調査・研究活動支援に関わる領域の一層の展開を図る
- ・ 学生， 大学院生の参画を拡大する
- ・ 大学内のより広範な部局に順次活動を拡大し全学的な取り組みへの発展を図る
- ・ より安定的で持続可能な事業としての体制を構築する
- ・ 博士号を有する若手研究者の多様なキャリアパスの開拓に係る事業（日本物理学会）との連携

まとめ

- “博士”のキャリアパス拡大の領域として
新しい市民社会の構築に対する支援
が考えられる
- 具体的な例としてサイエンスショップや
コンセンサス会議などがある
- これらはまだ萌芽的段階ではあるが
21世紀社会において重要な領域であり
大きな意義と可能性を持っていると考える